



# DX通信 Vol.8

## サテライトオフィス誘致のための条件が 全国で整いつつあります！

徳島県名西郡神山町は県の北東部に位置し、吉野川の支流である鮎喰川の畔に広がる山間地で、かつての基幹産業であった林業の衰退と共に人口は減少傾向にあったが2011年度に転入が転出を上回るといって社会増が起こった。この社会増は単年度だけにとどまりその後は社会減が続いているが、以前に比べると減少幅が小さくなっている。また若年人口が流出し、人口減少と高齢化が進行するという通常の過疎地域とはやや異なることが神山町では起こった。要因の一つとして考えられるのは、神山町では2010年以降、ITベンチャー企業を中心に現在までに12社が古民家を活用するなどしてサテライトオフィスを設置していることである。その理由の一つとして、通信インフラの完備が挙げられる。徳島県は「全県CATV網構想」を策定、推進していた。これにより高速大容量のブロードバンド網が県内に整備されることにもなり、徳島県内各自治体で整備が進み、神山町においては05年に既に町内全戸に光ファイバが敷設されていた。

そこで、通信インフラの整備状況として「光ファイバの整備率（世帯カバー率）」を見ると、令和4年3月末次点で「全国の整備率は99.72%」で未整備世帯は約16万世帯となっている。都道府県別に見ると離島や山間地等を多く有する地方公共団体において一部整備が遅れている。

神山町の事例から考えると、通信インフラの整備は全国的に整いつつあるため、今後は地域ごとの魅力を加えることでIT系企業の誘致や移住の促進につながる可能性があるのではないか。



図 都道府県別の光ファイバ整備率\*

\*：光ファイバ整備率：住民基本台帳等に基づき、事業者情報等から一定の仮定の下に推計したエリア内の利用可能帯数を総世帯数で除したもの（小数点第三位以下を四捨五入）。

出典：総務省 HP「令和3年度末ブロードバンド基盤整備率調査」の調査結果

資料：『ながさき経済』（2016.6）「神山町における地域活性化の取り組み」,株式会社長崎経済研究所